**説教20230917ローマ14：5-12マタイ18：21-35「主よ、憐れんで下さい」**

**この教会の界隈にはたくさんのコインパーキングがありまして、町の風景の一部になっています。それでそのコインパーキングですが、この一年間に新設されたところを見ますと、もはやそこには、車の底にあてがう板のようなものが設置されていないのです。その駐車場は実にスマートであり、板のようなものにつまづくこともありません。どこかに監視カメラが設置されていて、無銭駐車を許さないようなシステムになっているのでしょう。この新しいタイプのコインパーキングならば設置費も安くあがり、より安全であるように思われます。しかし一面、見えない眼差しに支配をされているようで、恐ろしさをも感じるのではないでしょうか。**

**これからのこの地上での社会の仕掛けは、このように、無人で、物によらず、目に見えない物事による支配が進んでいく方向に変化していきそうな気がします。**

**このように、この地上の物事は時代が進むにつれて、否応なく変化をしていくものです。変化をしないのは、ただ一つ、慈しみと憐みとまことの主イエスキリストさまだけであります。**

**今日のマタイ福音書に聞きましょう。**

**福音書にはよくイエス様によるたとえ話が記されています。今日の箇所は、仲間を許さない家来のたとえであります。**

**たとえ話を聴いて私たちがなるほどと納得出来るのは、そのたとえ話が、今自分が置かれている場所や時代にマッチして、あたかも自分のこととしてその話に聞き入ることが出来る時であります。そういう意味では、今日のたとえ話は、少し外れています。先ず、家来という言葉に、私たちはピンときません。今の世の中で、家来という立場の人は、公にはあまりおられないことでしょう。そして、このたとえ話から察しますに、この話に語られている時代は、奴隷制の時代だったのではないかと察せられます。**

**マタイによる福音書 18章 29節より**

**仲間はひれ伏して、『どうか待ってくれ。返すから』としきりに頼んだ。**

**しかし、承知せず、その仲間を引っぱって行き、借金を返すまでと牢に入れた。**

**こういう成り行きは現代社会では中々ありえないのではないでしょうか。今日の法律では、借金の踏み倒しによって逮捕される可能性は低いと言われています。**

**さらに、借金を返すまでと牢に入れた、ということも今日の尺度から考えれば腑に落ちないことでしょう。なぜならば、今日では牢屋に入れられた人が、人に借りたお金を稼げるほどの働きが出来るとは思えないからです。**

**このたとえ話の時代には、一種の奴隷制によって、鎖につながれた人が強制労働させられることによって、賃金を得て、そうして得たお金で借金を返し、その身が自由にされたのだと考えられます。この様に、この仲間を許さない家来のたとえの時代と、今の時代には、制度的な隔たりが大きいですので、この話を読む今の私たちは、いまいち、このたとえ話がピンとこないのではないでしょうか。**

**しかし、この両者の時代に共通する物事に思いを巡らしますと、私たちは、イエス様の言われることにまことにアーメンと言ってうなづけることと思います。**

**今まさに、この世ではハラスメントや暴力の問題が噴出しており、日々のニュースにも報道されております。これは、今迄、密室で行われ隠され続けていたハラスメントや暴力が、明るみに出てきているということでしょう。今迄、表面には出なかった、人と人との辛くて不幸な支配関係が、今、いたるところで明るみに出されているのです。**

**今日の聖書箇所でもそのような、人と人との辛くて不幸な支配関係が次の様にリアルに語られています。**

**マタイによる福音書 18章 28節**

**ところが、この家来は外に出て、自分に百デナリオンの借金をしている仲間に出会うと、捕まえて首を絞め、『借金を返せ』と言った。**

**ここに、捕まえて首を絞め、とありますが、この様な仕方で、人をことさらに苦しめる人間の暴力はいつの時代も変わらずに行われてしまうものです。**

**この家来は、つい先日、父なる神のまえにひれ伏し、『どうか待ってください。きっと全部お返しします』としきりに願い、父なる神の憐れみによって赦され、その借金を帳消しにされた者ではなかったのか。悲しいことかな、彼は、神に許されたことも、神の憐れみも全て忘れ去っている様であります。**

**私たちは、この恩知らずな家来の姿を見て教訓とし、私たちは、こんなことがないように、ひたすら主イエスさまを礼拝し、イエス様に感謝と賛美を捧げましょうと、心新たにされることも出来るでしょう。**

**でも、私たち人間には、ただの教訓だけでは正すことが出来ない罪があります。この仲間の首を絞めた家来が、この時イエスさまから離れていたのは、間違いないですが、その時の彼には、今、自分はイエス様から離れている、と自省するような余裕は少しもなかったことでしょう。或いは、元よりそれだけの余裕があれば、彼はイエス様から離れず、仲間に暴力を振るうということもなかったはずです。**

**先週は「自殺予防週間」でした。厚生労働省を中心とする国及び地方公共団体は、啓発活動を広く展開し自殺対策を推進されました。この教会の教会員にも、その御働きの為に今日まで勤めておられる方々がおられます。**

**この自殺ということは、これも又自分という人間に対する暴力であります。悩み続けている人は、「どうして自分だけこんなにうまくいかないのか……」とか「私はどうしたらいいですか？」とか、問い続けます。自ずと視野が狭くなります。周りにいる人のことや場所や景色のことも見られなくなります。この方向にかじを切って進み出すと、人は神様のことも見られなくなり、自分のことしか見られなくなってしまうことでしょう。そして今この世を覆っている悪い霊は、こっちの方向へと人をって、人が空しく絶望することを良しとしてしまうのです。**

**それに反して、聖霊なる神様、イエス様、父なる神が私たちを誘おうとされているのは、全く方向が違う、憐みに満ちた天の国であります。**

**第二次世界大戦中のユダヤ人強制収容所での絶望的な生活を生き延びた人たちのことを研究したフランクルは名著『夜と霧』を書いて、私たち人間の救いについて多くを教えてくれます。彼は次のように言います。「私はどうしたらいいですか？」という様に、自分中心に問いかけるのではなくて、「次々と起こる問題を通して、私は人生から何を問われているのか？」と問いかけなさいと。「私は人生から何を問われているのか？」と言うのは名言ですので、御存じの方も居られるかも知れません。が今一つ分かりづらいです。フランクルはクリスチャンではありませんでしたので、この様に表現したのだと思いますが、私たちクリスチャンならば、「私はイエス様から何を問われているのか？」と言い換えたくなることでしょう。「私はイエス様から何を問われているのか？」こういえば、将に相手と顔と顔とを見合わせているような明快さがあります。**

**即ち、私たちが憐みに満ちた天の国に向かっている、歩み出しているということは、自分中心に生きているのではなくて、イエス様中心に生きているということであります。そのイエス様中心の生き方を今日的な用語で語れば、それは首尾一貫感覚を持って生きるということです。首尾一貫感覚というのは広く知られている概念で、別名「ストレス対処力」や「健康に生きる力」などと呼ばれています。この感覚は大きく3つの感覚から構成され、優しく言えば次のようになります。**

**1.だいたいわかった　2.なんとかなる　3.どんなことにも意味がある**

**という３つです。**

**だいたいわかった、なんとかなる、どんなことにも意味がある、こんな風に表現しますと完璧主義の方には受け入れがたいかも知れませんが、私は、イエス様中心に生き、イエス様に憐れまれるとはそういう生き方だと思います。**

**では、今日のローマ書に聞いて参りましょう。**

**ローマの信徒への手紙 14章 07節以下**

**わたしたちの中には、だれ一人自分のために生きる人はなく、だれ一人自分のために死ぬ人もいません。わたしたちは、生きるとすれば主のために生き、死ぬとすれば主のために死ぬのです。従って、生きるにしても、死ぬにしても、わたしたちは主のものです。**

**この聖書による証言は、将に私たち人間が、自分の為に生きるのではなく、主イエスの為に生きるのだと明言しています。このことは先ほどの賛美歌でも歌われました。そして私たちは、この地上に生きる時に限らず、この地上を去って天の国へと向かう途上にあっても、自分の為にではなく主イエスの為に歩むのであります。私たちはこの様に黙想を深めるうちに、天と地が一体とされるような首尾一貫感覚を味わうことが出来るでしょう。**

 **しかし、この地上で父を見た者は一人もいない。（ヨハネ6：37～）のです。ですからこの地上で誰一人、人間が威張って天の国のことを断言することは出来ないのです。断言する代わりに、先ほど述べた、だいたいわかった、なんとかなる、どんなことにも意味があるという姿勢で臨むしかないのです。そして私たちは、ただひたすら主の前にへりくだって「主よ、わたしを憐れんで下さい」と言うしかないのです。**

**使徒信条や、今日のローマ書14章 10節**

**それなのに、なぜあなたは、自分の兄弟を裁くのですか。また、なぜ兄弟を侮るのですか。わたしたちは皆、神の裁きの座の前に立つのです。**

**などの箇所を読みますと、どうやら私たちは天の国に入れられる前に、神の裁きの座の前に立たされる様であります。その裁きの様子は、今の私たちにははっきりとは判りません。そこには厳粛な恐れが伴っていることしかわかりません。**

**しかし、この裁きの時に至るまでイエス様を離れず、イエス様中心に歩んだ人に対しては、イエス様と共に、完全な罪の赦しが与えられ、イエス様に引き寄せられて天の国に入れることだけは明らかにされています。**

**イエスさまは、私たち人間の罪を背負われ、十字架で死なれたことによって、私たちの罪を赦して下さいました。そして復活して、私たちが生きる時も死んだときも、首尾一貫して最後まで、共に歩むことを得させてくださいました。私たちに今ここに明らかに示されている主イエスのこの救いの恵みを共に喜んで参りましょう。**

**祈り**

**父なる神よ、この主日も、あなたがこの兄弟姉妹たちを遠くから近くから、身元へと呼び集めて下さいました。有難うございます。又、ユーチューブを通して礼拝されておられるお一人お一人も姿は見えませんが、心を一つにして天の国を思い、天の国への旅路を共に出来ますことをうれしく覚えます。又、今は世を去られた召天者のお一人お一人も、目には見えませんが、同じ思いを抱いて、共に居られることに感謝申し上げます。**

**今、この地上は揺さぶられ、多くの災害と困難があります。今、試練の中にある私たちをどうか憐み、お救い下さい。特にモロッコで地震に会われているお一人お一人を憐み癒して下さい。**

**試練の中にあって、私たちの心を守って下さい。私たちを暴力へと向かわせる悪い霊の仕業から、聖なる霊によって守って下さい。今、あなたから負い目を許され、御子イエスと共に居られる幸いを、ただただ喜ぶことが出来ますように。**

**私たちが、恐れることなく天の国へと向かうことが出来るようにして下さい。私たちが御心に従って行うことにはどんな事にも意味があり、あなたのみ栄が現わされ、祝福が満ちていく事を、だんだんと私たちに悟らせて下さい。**

**父と聖霊と共に一体であって**